

## イスラエルから歩み出す：神の招きに応じて ■加藤いつみ姉（TLEA東京アンテオケ教会）

派遣前には神様は新約からはルカ9：51「イエスはエルサレムに行こうとして御顔をまっすぐ向けられ」、18：31「さあ、これから私たちはエルサレムに向かって行きます。」、旧約からは今年のみことばの申命記1：40「向きを変えて葦の海への道を荒野に向かって旅立て」が繰り返し語られてきました。

初めてのガリラヤ湖は主の御臨在に満ちた場所でした。主が愛する弟子たちを選び、招かれ、数々の奇跡をなさり、宣教の中心となさった場所に座り湖を眺めると、生命と恵みに満ちたこの場所の力を感じ、イエスさまがどれだけここを愛されたか、主の中から癒しと恵みが豊かなガリラヤの水のようにつきせず溢れ出たことを感じました。ここにずっといて伝道なさりたかったらうなと強く感じ、その中で神様のご計画に従い、十字架の死を受け入れ、エルサレムに



顔を向け、弟子たちの先頭に立ってエルサレムに登っていかれたその決意を強く感じ、私もついてくるように招かれていると強く感じました。2月の長崎殉教聖会で、「あたたは、私を愛するか?」「私に従いなさい」と強く語られましたが、この度、この呼びかけがペテロになされたと言われる場所でもこの呼びかけを聞くことができたことも大きなことでした。もう一度、主に自分を捧げ、従って行く決意を迫られました。それもこれからの道は荒野へ出て行く道、十字架へと導く主が自ら先頭に立たれた歩みとはっきり語られました。ガリラヤから動きたくないと感じていた私に神様は夜の聖会で満月と虹の雲を見せてくださり、暗闇の中でも必ず主が共にいてくださり、あのような美しい恵み、奇跡を表し、イスラエルの民を雲の柱、火の柱として先頭に立って導いてくださったように必ず私を導き、必要なものは天から降らせてでも与えてくださる、心配しないで主を信頼し、向きを変えて荒野に足を踏み出すようにとはっきり語られました。

イスラエルの民と変わらない、つぶやきやすい、弱い私はそれでもその弱さを十字架で購ってくださり復活の力で満たして下さっている主が共にいてくださいます。その主ご自身が旅の先頭に立って導いてくださり、すでに勝利して下さっていることを信じて、みことばを握り、最後まで聞き従って歩みたいと祈った恵みに満たすイスラエル派遣でした。皆様のお祈りを感謝します。

